

2023年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）：「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」

バリュー・ステートメント（価値宣言）：「私たちは、生徒・保護者・職員・学校関係者とのコミュニケーションを大切にします。」

1 本学園が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っ生きていこうとする子どもたちを受け入れ、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)
学校像2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love "Tokufu.")

(2) 目指す生徒像

生徒像1	自己成長感（「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、自己効力感（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、自己有用感（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った自尊感情の高い生徒 (Self-esteem)
生徒像2	自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像3	自立と社会参加に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」、及びソーシャルスキル（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）とライフスキル（社会生活・職業生活等に必要な基礎的・基本的な知識・技能）を身に付けた生徒 (Social-skills and Life-skills)

(3) 目指す職員像

職員像1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く協働と利他の精神 (Collaboration & Altruism) を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員
職員像3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢を調和的に体現した職員 (Synthetic Competence)

(4) 目指すコース像

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす“最強の常識人”を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する“ドッグマスター”を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて“とがったITジェネラリスト”を育成するコース
日本語コース	卒業に必要な「学ぶための日本語」と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、希望進路を実現する“自立した日本語使用者”を育成するコース

2 当面の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組が次のとおりたくさんあり、それらを本学園では“徳風スタイル”と表現しています。

徳風スタイル	
教育システム	(1) 高専併修による“ダブルスクール教育” (2) 日本語コース設置 (3) 5年一貫校育(注1)
学校生活	(4) 30人学級 (5) 9時30分始業 (6) スクールバス通学 (7) 生徒寮 (8) 徳風総合支援プログラムによる支援(注2)
授業	(9) 45分5限授業 (10) 3年間の公文学習 (11) “ライフスキル”と“ソーシャルスキル”の習得 (12) 5日間の定期試験 (13) 徹底した補充授業(注3)
(注1) ドッグケアコース・パソコンコースの生徒が徳風技能専門学校専門課程（2年間）のトリミング科・コンピュータ科に進学して知識・技能を向上させる仕組みのこと。 (注2) 特別な支援を必要とする生徒について、保護者や医療・福祉・行政等の関係機関との連携協力体制の下、当該生徒の成長を適切に支援するための取組のこと。 (注3) 学校に行きたくても行けない生徒など、やむを得ない理由で欠席を繰り返した生徒に対し、欠課時数の多い教科・科目等の履修を可能な限り支援する仕組みのこと。	

当面、次の2点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標1：“フレキシブルスクール”への更なる進化

- 本学園は令和2年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール教育”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、年次進行で、これまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を本校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を本校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入してきました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして令和3年度に立ち上げ、「専門的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として進化を図るなど、本学園は、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として、更なる進化を続けていきます。

令和元年度 まで	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度
		分野	学科	
	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	技能連携
	パソコンコース			
総合コース				
令和2年度 から	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度
		分野	学科	
	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修
	パソコンコース			
	総合コース			
日本語コース【令和3年度設置】	文化・教養分野	総合科 【令和2年度設置】		

重点目標2：“働き方”の更なる進化

- 本学園は令和2年7月に校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年10月に「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」を目的にして、本学園独自の「働き方改革」に取り組むこととしています。
- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに仕分けしたうえで、「令和2年度中に実施」「令和3年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つに区分し、各改革プランを計画的に実施することとしています。

	A：令和2年度中に実施	B：令和3年度中に実施	C：令和5年度末までに実施	D：令和6年度以降に実施
やめる	■改革プラン1：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取り止めと自習授業の実施			
減らす	■改革プラン2：土日コースのスクーリング時数削減	■改革プラン3：広報活動の実施回数削減 ■改革プラン4：除草作業の実施回数削減		
変える	■改革プラン5：文書・チラシ等の折込作業等の機械化 ■改革プラン6：2学期三者懇談会の対象生徒の制限	■改革プラン7：オンライン授業（金曜4限）を含む時間割の編成・実施 ■改革プラン8：職員室の机配置の一部変更 ■改革プラン9：広報チラシ等作成業務の完全業者委託 ■改革プラン10：教員間の交渉による時間割の一部変更 ■改革プラン11：会議革命	■改革プラン12：寮監業務の抜本的改革	■改革プラン13：授業時間の一律標準化（1コマ50分で統一）
始める・つくる	■改革プラン14：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入 ■改革プラン15：「学校閉業日」の導入			■改革プラン16：1年単位の「変形労働時間制」の導入 ■改革プラン17：Wi-Fi環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入 ■改革プラン18：教育課程を基にした各教科の教員数と非常勤講師の時間数の算定 ■改革プラン19：各種特別手当の支給 ■改革プラン20：時間年休の導入

3 本年度の重点取組と自己評価

重点取組	内容・方法等	自己評価
<p>1 “徳風スタイル”の更なる進化</p>	<p>(1)「自立支援型デュアルシステム」の実施 令和5年度以降の入学生を対象に、「インターンシップ（就業体験）」の標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」とは異なる、本学園生徒の実態等に即した「自立支援型デュアルシステム(自称)」を新たに導入し、2年次での実施に向けて準備します。</p> <p>(2)生徒相談機能の強化 「保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する者や心理に関する支援を要する者の関係者に対し、相談及び助言、指導その他の援助」等を行う公認心理士が、自身の専門性と公立学校教員の経験を活かして令和5年度から常時勤務します。</p> <p>(3)総合コースにおける「日本語講座」と「ソーシャルスキル講座」の新設 総合コースにおいて、「日本語コースで初級レベルから日本語を学習するには及ばないが、漢字の読み書きが苦手。」「教科書の理解が難しい。」といった外国につながる生徒が日本語を学べる「日本語講座」と、「言葉で考え、判断し、表現する言語能力や認知機能・感情統制機能の向上を図る学習活動を通じて対人関係を円滑にするための技能を身に付けること」を目標とする「ソーシャルスキル講座」を新設します。</p> <p>(4)“がんばる生徒”を応援する「奨励金制度（エンカレッジ制度）」の創設 学業成績や部活動で顕著な成果を収める生徒だけでなく、不登校を経験した生徒、障がい特性を抱える生徒、アルバイトをして家計を助ける生徒、家族の世話・介護等を行う“ヤングケアラー”と言われる生徒など、自らの課題・特性・環境を“バネ”にして前向きに生きていこうと頑張る生徒を応援するため、年間10万円の奨励金（返還不要）を支給する「三重徳風学園奨励金制度（エンカレッジ制度）」を新たに創設し、令和5年度から運用します。</p>	<p>(年度末に記入)</p>
<p>2 校内組織の改善</p>	<p>(1)「指導部」の創設 生徒指導は、生徒が進路を選択・実現する資質・能力を育てる組織的・継続的な営みである進路指導、ひいては生徒の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育てるキャリア教育と密接不可分の関係にあることを踏まえ、生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ「指導部」を新たに創設し、教務部と昨年度創設した保健部・広報部と併せて4部体制とします。</p> <p>(2)広報活動の拡大・多様化と広報部への人材配置 中学校を主な対象とする広報活動から中学生の保護者を含め一般住民をも対象とする広報活動へ、印刷物中心の広報活動からインターネットをフルに活用した広報活動へと広報の対象・手段の拡大・多様化を図り、必要な人材を広報部に配置します。</p> <p>(3)キャリア教育委員会の新設 (4)入学者選抜、入学相談等の係の新設 (5)徳風技能専門学校専門課程担任の複数化</p>	<p>(年度末に記入)</p>

4 本年度の計画と自己評価

以下の各表において、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「次年度行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

徳風高等学校全日型コース・徳風技能専門学校高等課程

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	学習指導に関する指導力向上のための組織的な取組が弱い。また、常勤教員が18名と少なく、授業時間中は空き時間もほとんどない状況ではあるが、生徒の学力と教員の指導力を継続的に向上させていくための実施可能な仕組みと共通実践が必要である。		
目指す状態	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	各共通教科・科目の授業満足度調査の実施	自己評価	(年度末に記入)
	校内授業公開週間年2回設定		
添削指導(レポート)及び「メディア学習」の抜本的改善			
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上 職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員8割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力(その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力)を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ「指導部」の新設	自己評価	(年度末に記入)
	校則の見直し		
	「徳風総合支援プログラム」の積極的展開		
特別指導対象生徒の自己変容を促す課題内容の改善			
評価指標	問題行動による特別指導件数年10件以内	(年度末に記入)	
	生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

ウ 進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目指す状態	生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		

実践内容	生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ「指導部」の新設（再掲）	自己評価	(年度末に記入)
	キャリア教育委員会の設置		
	キャリア教育指導計画の策定と全校体制による進路指導の展開		
	「デュアルシステム」の次年度実施に向けた準備		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上		(年度末に記入)
	生徒満足度調査において「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

エ 安全・健康指導

現状と課題	令和3年度3学期から養護教諭が常駐し、令和4年度に保健部を新設したところである。今後は、本校生徒の実態を踏まえ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について検討する必要がある。		
目指す状態	全生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関するケース会議を必要に応じて開き、当該生徒に関する情報が全職員に共有されており、全教員が適切に対応している。		
実践内容	保健室及び生徒相談室の移転と各室内環境の整備	自己評価	(年度末に記入)
	生徒相談機能の強化（生徒相談員の常駐化）		
	学校相談機能の強化（学校相談員との連携）		
	「徳風総合支援プログラム」の積極的展開（再掲）		
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを更に向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	生徒が主体的に計画・実施する体育祭・文化祭の開催	自己評価	(年度末に記入)
	生徒会主導の啓発活動の実施（挨拶、いじめ撲滅、環境美化等）		
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒8割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

カ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会予算の有効活用	自	(年度末に記入)

	部員主体の新入部員勧誘活動	自己評価	
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒6割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

キ 総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。		
目指す状態	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている。		
実践内容	各選択講座の趣旨、目標及び内容の明確化	自己評価	(年度末に記入)
	「日本語講座」及び「ソーシャルスキル講座」の新設		
	「ネイルアート講座」及び「調理講座」を担当する外部講師との連携強化		
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。		
実践内容	広報活動と社会貢献活動として各種イベント等への積極的参加	自己評価	(年度末に記入)
	何を学び、自分がどう変わったかを語った卒業生の手記「犬を学び、犬から学ぶ～成長の軌跡～」(仮称)の作成と広報活動での活用		
	ペットショップ・トリミングサロン・動物病院等広報・進路開拓のための事業所訪問 テレビ、広報誌等マスメディアからの取材依頼への積極的対応		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野を伸長するため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目指す状態	全生徒が複数の検定試験を受験し合格している。また、個別に設定された目標の実現に向け自主的に学習している。		
実践内容	ICT機器(コンピュータと周辺機器)の計画的整備	自己評価	(年度末に記入)
	日本情報処理検定以外の資格取得に向けた検定試験対策の実施		
	プログラミングやCGデザインに関わるコンテストへの参加		
評価指標	日本情報処理検定3級以上を取得した生徒8割以上 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		(年度末に記入)

次年度行動計画	(年度末に記入)
---------	----------

コ 日本語コース

現状と課題	令和3年度に設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコースを運営していく必要がある。		
目指す状態	進学希望の生徒は日本語能力試験（JLPT）の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格し、希望進路を実現している。また、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている。		
実践内容	3年生全員の日本語能力試験（JLPT）「N3」以上合格と進路実現	自己評価	(年度末に記入)
	2年生のインターンシップ実施		
	「日本語コース保護者会」の実施		
	他の学年・コースとの積極的交流（合同学級を含む。）		
評価指標	日本語コース全員の進級・卒業		(年度末に記入)
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施	自己評価	(年度末に記入)
	安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施		
	敷地内外からの治安を高めるため木の剪定実施		
評価指標	計画した工事の8割以上実施		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

イ 広報・生徒募集

現状と課題	教育活動の特色化・魅力化に関する経営努力が募集定員の充足に結びつかない状況が続いており、特に伊賀地区、松阪地区及び滋賀県からの入学者が減少傾向にある。今後は、本学園の「強み」が県内外の中学校・中学生に一層広く周知され、入学者増につながる広報の在り方を追求する必要がある。		
目指す状態	令和4年度に新設した「広報部」が主導する広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学者数を維持している。		
実践内容	在校生が主体的に活躍し運営に貢献する「オープンキャンパス」の実施	自己評価	(年度末に記入)
	中学校訪問の時期、対象、持参物等抜本的改善と中学校教員対象の「中学校訪問に関するアンケート」の実施		
	印刷物の早期準備		
	本校ホームページのリニューアル		
	SNSを積極的に活用した広報活動の実施		
評価指標	次年度入学者1割増		(年度末に記入)

次年度行動計画	(年度末に記入)
---------	----------

ウ 組織運営

現状と課題	組織運営の効率化を図るため、令和2年度末に「総務部の廃止」、「主幹教諭の新設」、「主任会に替わる少数精鋭の学校経営委員会の設置」を、令和3年度末に「保健部と広報部の新設」、「指導教諭の新設」を決定した。今後は、これらの改革の成果を検証しつつ、令和2年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的に実施していく必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え、行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を持つ職員が多い。		
実践内容	組織力向上に関する意識啓発文書の年6回以上配付	自己評価	(年度末に記入)
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施 令和5・6年度に実施予定の「働き方改革アクションプラン」の実施		
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上	評価	(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

エ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。		
実践内容	生徒会からの要望1つ以上実現	自己評価	(年度末に記入)
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施(再掲) 令和5・6年度に実施予定の「働き方改革アクションプラン」の実施(再掲)		
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上、保護者8割以上、職員7割以上	評価	(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風高等学校土日コース・平日サポートコース

現状と課題	両コースには、入学試験を受けて新規入学した生徒だけでなく、全日型コースから転籍した生徒、他校から転・編入学した生徒も在籍するなど、多様な生徒が在籍していることから、個に応じた学習指導等きめ細かな指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が学業と就労等の両立を図りながら、単位修得・進級・卒業を果たしている。		
実践内容	各教科・科目等における面接指導時間数の確保と欠席生徒への具体的手立ての実施	自己評価	(年度末に記入)
	各教科・科目等における添削指導に係る課題レポートへの記載内容の抜本的改善 メディア学習による面接指導等時間数の減免措置の抜本的改善		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上	評価	(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風高等学校技能連携校コース

現状と課題	技能連携校2校(鴻池学園高等専修学校及び大阪技能専門学校。以下「当該2校」という。)は高等学校通信教育規程に基づく通信教育連携協力施設
-------	---

	であり、当該2校と良好な連携協力体制を築きながら、適正かつ効果的に通信教育を実施する必要がある。		
目指す状態	生徒が当該2校で専門的な知識・技能を習得しながら、単位修得・進級・卒業を果たしている。		
実践内容	各教科・科目等における面接指導時間数の確保と欠席生徒への具体的手立ての実施	自己評価	(年度末に記入)
	各教科・科目等における添削指導に係る課題レポートへの記載内容の抜本的改善 連携協力会議の年1回以上の実施		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風技能専門学校専門課程

現状と課題	徳風高等学校の卒業者に限ることとしてきた受入方針を令和3年度入試から改め、三重県立高等学校の卒業者も入学定員の5割を上限に受け入れることとしているが、入学者は極めて少ない状況にある。少人数教育の利点を活かしつつ、学生募集にも一層注力する必要がある。		
目指す状態	入学定員を充足する入学者数があり、経営の安定化が図られている。		
実践内容	各学科に応じた検定試験対策の強化	自己評価	(年度末に記入)
	学生募集に係る高校訪問年2回実施		
	教務内規の見直し		
	学科別担任制の導入		
評価指標	入学定員の充足 学生対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した学生7割以上		(年度末に記入)
次年度行動計画	(年度末に記入)		

5 本年度の学校関係者評価

(年度末に記入)

6 次年度に向けた主な行動計画

(年度末に記入)